

企画・監修：原田峻・西城戸誠 執筆：『福玉便り』編集部 編集デザイン：NPO 法人ハンスオン埼玉
協力：（一社）埼玉県労働者福祉協議会・生活協同組合コープみらい埼玉県本部

東北・福島から埼玉県内へ避難されている方

5514人？



こんにちは 『福玉便り』と申します。
福島・東北から、未だに5、500人以上の方(上図参照)が、ふるさとを遠く離れ、家族と離れ、埼玉に避難・移住を余儀なくされています。

『福玉便り』はこうした方々に向けた唯一の情報誌として、この一年も毎月、4,000部をお届けしてきました。埼玉県内で支援活動を行ってきた団体・ボランティアが共同して編集し、県内の企業の方が印刷をし、避難者のグループや自治体の方が配布をしてくださっています。

発災後5年目を迎える今年も、避難されている皆さんの状況が今、どうなっているのか、どんなことを感じて毎日暮らしているのかを、あらためてお伝えしたい。共有したいと思い、この「2015春の号外」を編集しました。

福島・東北に戻る決断をした方、移住を選択された方、ほとんどアパートの外に出られない方……ほんとうに様々で、それは孤立しやすいことです。どうぞ本誌をご一読いただき、今ひとたび、避難されている方々の声に耳を傾けてください。

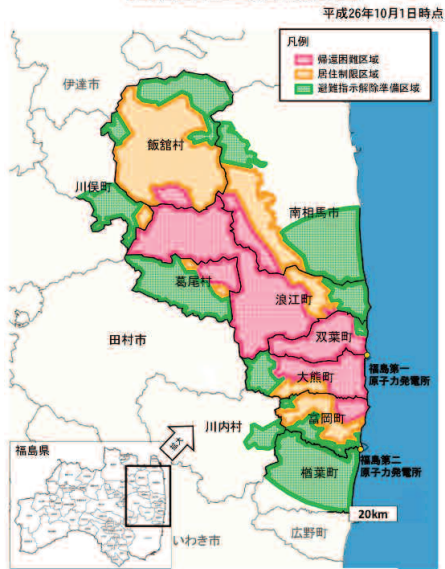
そして、「これから」について、一緒に考えてください。
福玉便り編集部 同

「避難」の現在。……………	2
自治体による生活支援の現状と課題……………	3
住宅支援の現状と問題点……………	5
福玉マップ……………	6
この一年・県内各地の活動から……………	8
『福玉便り』読者アンケートから……………	12
集まりながら、訪ねながら(アンケートを読む)……………	17
自主避難者の声と、その背景にあるもの。……………	20
五年目の県外避難者「支援」を巡って……………	22
復興支援員さんが活動しています……………	23
一人で悩まないで、ぜひ、ご相談ください……………	24

「避難」
の
現在。



避難指示区域の概念図



経済産業省のホームページより

『福玉便り』編集部
では2013年1月と
2014年2月に埼玉県
内の市町村を対象とした避難
者数調査を実施し、2013年
は6,750人、2014年は
5,895人という結果が出ま
した(『福玉便り2013年春
の号外』『2014年春の号
外』)。同じ時期に復興庁が発
表していた埼玉県内の避難者
数は、2013年が4,037
人、2014年が2,971人
で、大きな乖離が発生していま
した。

その後の新聞報道等で明らか
になったのは、埼玉県庁が一
部の応急仮設住宅(借り上げ住
宅)の入居者数のみを「避難者」
として集計し、その数字が復興
庁に提出されていたというこ
とでした。国が「避難者」の定義
や人数の集計方法を示してい
ないため、集計からこぼれ落ち
ている方々が存在していたこ
とになります。2014年8
月には、埼玉県庁の集計対象が
拡大されました。

昨年の調査から1年が経
ち、現在、埼玉県内に何人の方
が避難されているのでしょうか。
ここでは、埼玉県内の避難
者数の最新データをお伝えい
たします。(編集部・原田)

5,514人。埼玉県庁および復興庁の発表数が5,632人（2015年1月15日時点）ですので、一昨年・昨年と比べるとかなり近い数字となりました。

しかしながら、今回得られた数字が正確な避難者数であるとは、断言できません。人数の集計日時は市町村によって異なり、2014年7月（1件）、9月（1件）、10月（2件）、12月（2件）、2015年1月（51件）、2月（6件）とバラつきがあります。そのため、ここに掲載した人数が2014年2月時点での人数とは一致しない可能性があります。

また、その集計方法は総務省の全国避難者情報システムの登録数（49件）が最も多いものの万能ではなく、「避難者からの自己申告」（38件）や「借り上げ住宅の入居者数」（22件）と照合するなど、自治体ごとの試行錯誤が見られます。

ある自治体では「総務省の全国避難者情報システムの登録数」と合わせて、「避難者宛に調査票を郵送し、その返信状況により確認」という工夫を行っています。担当課の方からは口頭で、「復興庁や埼玉県が集計方法を決めないで、市町村の判断に委ねているのは、限界があるのではないだろうか。私たちの自治体では経費をかけて定期的に避難者数の確認を行っています。が、丁寧集計している自治体とそうでない自治体で、報告される避難者数の信憑性が

「福玉便り」編集部では2015年1月～2月に、埼玉県内の全63市町村を対象としたアンケート調査を実施しました。「各自治体内の受け入れ避難者数と、避難元の内訳」「実施している生活支援」などをお尋ねし、すべての自治体からご回答をいただきました。ご協力いただいた担当課の皆様にも、御礼を申し上げます。ただし、出身ごとの避難者数の内訳を非公開としている自治体もあります。ここに掲載している出身ごとの避難者数は、回答のあった範囲での合算となりますので、実際の人数はもっと多いことが見込まれます。なお、浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・楢葉町・葛尾村・南相馬市・川内村・飯館村・川俣町については、役場のホームページ上で避難先別の避難者数を随時公表しております。これら10市町村のホームページに掲載されていた2014年1月～2月上旬時点での「埼玉県への避難者数」は、以下の通りです。浪江町740人、双葉町896人、大熊町398人、富岡町566人、楢葉町131人、葛尾村7人、南相馬市583人、川内村55人、飯館村73人、川俣町7人

違つてしまいませんか?」という指摘をいただきました。

市町村任せにするのではなく、国や埼玉県が避難者数の集計方法にきちんと指針を示すことを、再度求めていきたいと思っています。

■埼玉県への避難者の数と経緯

それでは、埼玉県内の約5,500人は、主にどの地域から避難されているのでしょうか。大まかには、以下の3つの地域に分けることができます。

① 福島県内から国や自治体の指示によって避難した、「強制避難」の方々。震災直後、全

域もしくは一部が「警戒区域」「計画的避難区域」「緊急時避難準備区域」に指定された浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・楢葉町・葛尾村・南相馬市・川内村・飯館村・川俣町・田村市・広野町の12市町村からの避難者数を合計すると、今回の調査の判明分で3,612人になります。

②国や自治体の指示とは別に、原発事故の影響で福島県内から「自主避難」した方々。

郡山市・福島市・いわき市など、右の12市町村を除く福島県からの避難者数を合計すると、今回の調査の判明分で1,123人になります。

③埼玉県には福島県だけでなく、地震・津波・放射能被害によって、宮城県・岩手県・茨城県・栃木県・千葉県からも避難している方がいらつしやいます。これらの県からの避難者は、今回の調査の判明分で646人になります。

ています。

あくまで大まかな傾向として、埼玉県内には3つの異なる地域事情を背負って避難している方々がいること、その上でさらに個々の生活事情があることを、改めて確認しておきたいと思います。

■避難者数の変化

昨年の号外では、2013年春から2014年春にかけて、埼玉県内の避難者数が約千人「減った」ことを指摘しました。今回の調査を踏まえると、この一年間で約300人の減少はありましたが、減少傾向が収まりつつあります。

自治体による 生活支援の現状と課題

埼玉県では、東日本大震災の発生直後から、多くの自治体が体育館・福祉センターなどで避難者を受け入れてきました。2015年1月時点でも、埼玉県内63市町村のうち58市町が避難者を受け入れています（1ページの地図参照）。ここでは、埼玉県内の市町村アンケート（2ページ参照）によって明らかになった、自治体ごとの生活支援についてお伝えします。（編集部・原田）

■水道料金減免の実施状況

今回のように数多くの避難者を受け入れるというのはどの自治体にとっても初めての経験であり、住民票のない「住民」に対してどのような対応を取るか、各自自治体が判断を求められてきました。その代表例として、水道料金の減免があります。

他県の状況を見ると、例えば東京都のように、一律で水

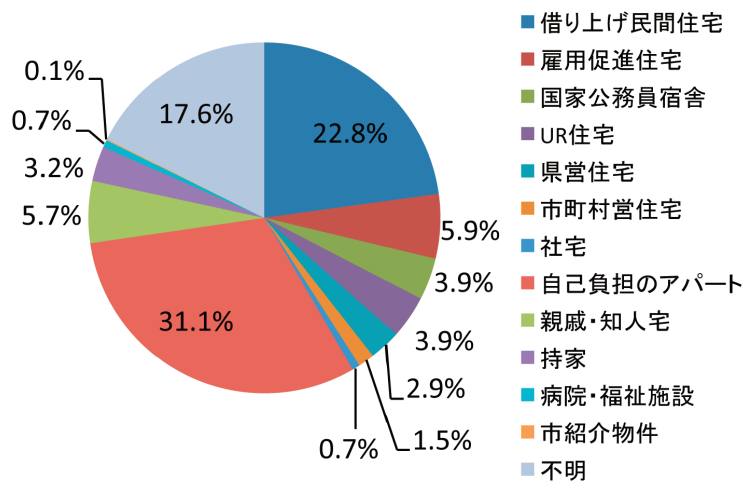
道料金の減免を実施している都道府県もあります。しかしながら、埼玉県ではそういった支援を実施しておらず、埼玉県内の自治体の中で、水道料金減免の実施の有無にバラつきが起きることになりました。

2015年1月時点で、水道料金の減免を実施しているのは、避難者を受け入れている58自治体のうち、30自治体。元々実施していなかった自治体が17、既に打ち切った自治

体が11となります。

水道料金の減免を実施中の30自治体の中でも、全額免除が17自治体、基本料金免除が10自治体、基本料金以外免除が3自治体と、減免の内容には自治体ごとの違いが見られました。また、減免の時期についても、「打ち切り時期は決まっていない」が19自治体、「平成27年3月に打ち切り予定（延長検討も含む）」が9自治体、「平成28年3月に打ち切り予定」が2自治体となつて

図 今回判明した51市町村4,425人の住居形態の分布
※「把握していない」・「未回答」の7市町村1089人を除く



また「1年ごとの更新では、生活の先の見通しが立たない」という声もよせられています。

住み替えたい理由は、さまざまです。小学生だった子どもが中学生になり、狭くなった／赤ちゃんが生まれて狭くなった／ケガや病気のせいで、階段が上れなくなった／近所トラブルで

慌てて避難をした人たちが、見知らぬ土地で、果たして避難住宅を選べたのか、またこれほど避難が長期化することを考えたうえで避難住宅を選べたのか、住まいの問題は、時間とともに個別化し、より複雑に、深刻になっているのです。

鳥取県は「避難者の住まいに関する不安が大きい」と判断し、大幅に延長することにした。市町村に対しても延長を検討するよう求める」としています。

◆問題点1: 供与期間がわからない

いま、避難されて、応急仮設住宅

宅(みなし仮設住宅)に住まわれている多くの方が「供与の打ち切り」に対する不安を抱えています。

東日本大震災は「自然災害」と「原子力災害」の複合災害です。かつて経験したことのない「原子力災害」の被災者・避難者の住宅問題に、災害救助法の枠組みだけで対応しきれぬのか、続けられるのか、ということは、専門家も指摘し続けています。

住宅支援の現状と問題点

◆問題点2: 住み替えが認められない

◆問題点3: 応急仮設住宅のいま

◆自治体独自の支援―鳥取県の事例から―

このように、たまたま避難先の自治体が変わっただけで、水道料金の減免に差が出てしまっているのが現状です。

■その他の生活支援の実施状況

水道料金に加えて、埼玉県内のいくつかの自治体では、独自の生活支援を実施しています。

のが「広報の配布」で、情報誌やイベント案内の配布を実施している自治体も含めると、37自治体が何らかの情報を避難者に發送しています。

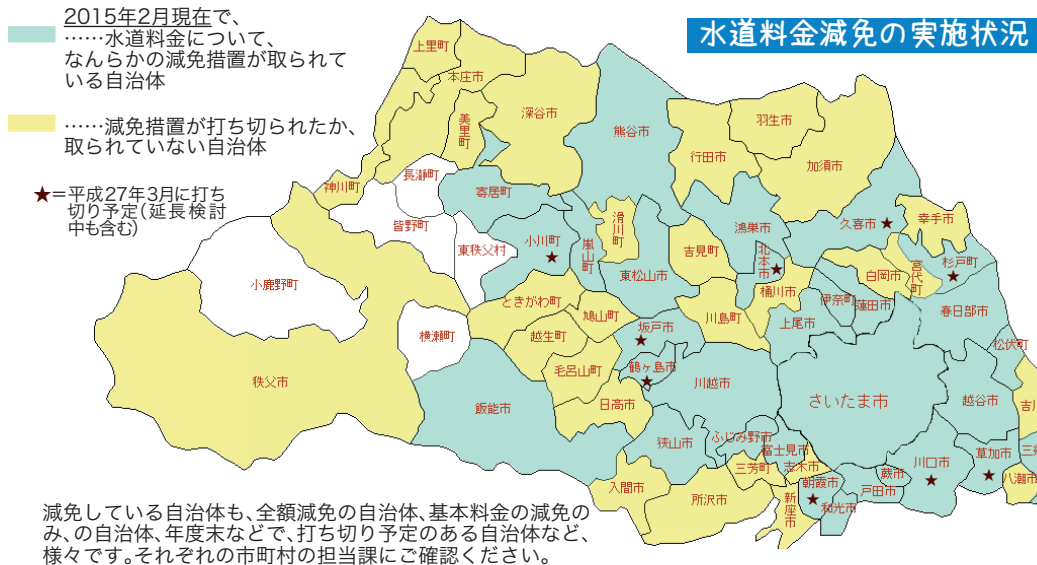
最後に、今回のアンケート調査では、いくつかの自治体の担当課の方々から、避難者支援の難しさについて、率直なご意見をお寄せいただきました。

■自治体間の連携を

水道料金の減免をはじめとする多岐にわたる生活支援は、避難生活の負担軽減となるだけでなく、受け入れ自治体が避難した方々を「忘れていない」ことを示す大事な手段となっています。

今後、これらの課題を解決し、安心して暮らせる環境づくりが課題となる。(越谷市)

長期化する広域避難に、今後どのような対応・支援を実施していけばいいのか、自治体の職員の方々にとつても私たち住民にとつても、試行錯誤が続いています。官民の率直な連携・情報交換ができるよう、『埼玉便り』編集部としても自治体職員の方々に「埼玉会議」への出席などと呼びかけていく予定です。



減免している自治体も、全額減免の自治体、基本料金の減免のみ、の自治体、年度末などで、打ち切り予定のある自治体など、様々です。それぞれの市町村の担当課にご確認ください。

健康診断・予防接種の補助	さいたま市、川口市、川越市、草加市、吉川市、狭山市、戸田市、和光市、朝霞市、新座市、富士見市、坂戸市、鴻巣市、入間市、本庄市、熊谷市、桶川市、志木市、ときがわ町、寄居町、神川町
戸別訪問・電話連絡	川口市、所沢市、越谷市、草加市、三郷市、狭山市、戸田市、新座市、富士見市、坂戸市、鴻巣市、蓮田市、飯能市、加須市、滑川町
幼稚園・保育園の補助	さいたま市、川口市、川越市、草加市、朝霞市、新座市、ふじみ野市、入間市、行田市、志木市、ときがわ町
義援金・支援金や生活用品の配布	さいたま市、川越市、越谷市、草加市、新座市、富士見市、鴻巣市、春日部市、吉見町
循環バスの無料券・割引券の配布	川口市、川越市、上尾市、富士見市、東松山市、坂戸市、熊谷市
交流会の実施	草加市、狭山市、富士見市

※本表は現時点で把握できた項目のみ掲載しております。抜けている項目や、新たに始められた項目がありましたら、編集部までご連絡ください。



交流会・グループ



常設の場所・お店

**28 ふるさと交流サロン【熊谷市】**

3年6か月にわたり交流サロンやイベントを開催して来ましたが、2015年3月をもって閉会の予定です。

**27 “想い”【鴻巣市】**

鴻巣市赤見台の避難者から派生。「東京電力による賠償説明会」、交流会などの開催や、情報誌「想い」の発行、各種情報発信活動をおこなっています。

**25 鳩のつどい【鳩山町】**

JAXA 鳩山宿舎にて、「鳩のつどい」を月に2回実施しています。

**24 ここカフェ【坂戸市・鶴ヶ島市・川越市】**

『心の内を話せる場』のためにはじまった、ゆるやかな茶話会です。お子様連れも大歓迎です。主催：実行委員会＋社協

**23 おあがんなんしょ【ふじみ野市】**

毎月1回の交流会です。

第1部：【いろいろっぱた】避難されている方々が仲間同士で本音で語り合う時間を大切にしています。第2部：【お茶にすっぺ】協力者とみんなでワイワイガヤガヤ楽しい時間です。

**21 お茶のみ交流会【富士見市】**

市内に避難してきた方々の「お茶のみ交流会」を2か月に1回のペースで実施中。

**20 新座さいがいつながりカフェ【新座市】**

新座市にある国家公務員宿舎の集客室で、第2土曜日に交流会をしています。主催：震災支援ネットワーク・新座

**ライフサポートステーション**

連合埼玉・埼玉労協が運営している、総合生活支援サービスの拠点です。労働・雇用・暮らしの無料相談のほか、支援物資の配布もあります。お気軽にお越しください。ライフサポートステーション（ネット21事務所）は、**川越、久喜、熊谷、大宮、川口市労働会館（支援物資提供のみ）**にあります。お問合せは、（一社）埼玉労協 048-833-8731 まで。

**29 羽生つながりカフェ【羽生市】**

「パープル羽生」の和室で毎月1回開催しています。お茶を飲みながら、お話ししましょう。

埼玉県内の各地で、被災者・避難者と支援者が一緒に交流の場をつくっています。ぜひご参加・お立ち寄りください。お待ちしております。

**18 梨の実スペース【さいたま市】**

（大熊町コミュニティ支援関東事務所）

大熊町出身の復興支援員もお待ちしておりますのでぜひ遊びにきてください！金曜日以外にお越しの際は、事前にご連絡を。毎週金曜日 10:00～16:00 さいたま市浦和区仲町2-15-4アイリーセブンコート1F

**19 なみえのしゃべり場 浦和の8畳間【さいたま市】**

（浪江町復興支援員 埼玉事務所）

浪江町が埼玉県内に配置している復興支援員の事務所です。浪江町民に限らず、気軽に遊びに来てください。平日 10:00～17:00 さいたま市浦和区常盤 6-4-21 ときわ会館 4F 横の間

**17 和光 3.11 つながりカフェ**

【和光市】

2014年7月より隔月で開催中です。お気軽にいらしてください。つながりカフェ実行委員会・和光市社会福祉協議会 ☎ 048-452-7606

**18 梨の実スペース【さいたま市】**

（大熊町コミュニティ支援関東事務所）

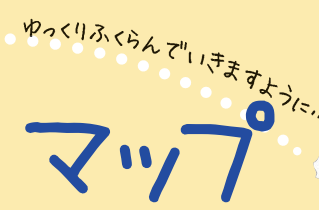
大熊町出身の復興支援員もお待ちしておりますのでぜひ遊びにきてください！金曜日以外にお越しの際は、事前にご連絡を。毎週金曜日 10:00～16:00 さいたま市浦和区仲町2-15-4アイリーセブンコート1F

**18 梨の実スペース【さいたま市】**

（大熊町コミュニティ支援関東事務所）

大熊町出身の復興支援員もお待ちしておりますのでぜひ遊びにきてください！金曜日以外にお越しの際は、事前にご連絡を。毎週金曜日 10:00～16:00 さいたま市浦和区仲町2-15-4アイリーセブンコート1F

2015年2月現在



作成：福玉便り編集部

**30 お茶っこふるさと会【久喜市】**

ネット21久喜事務所で月一回開催されている避難者交流会です。

**29**

羽生市

鴻巣市

北本市

桶川市

川島市

上尾市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

戸田市

和光市

新座市

富士見市

三芳町

朝霞市

この一年、 県内各地の活動から

埼玉県内では各地で避難者の方々のグループが結成され、地元行政・ボランティアと連携しながら、交流会や賠償相談会といった取り組みを進めています(6〜7ページのマップ参照)。
この一年間の活動の中から、参加者のみなさんの写真を送っていただきました。



ぼろろん♪カフェ実行委員会

「つながるきっかけ」「互いの話を聞いたり語ったりできる場」を作ること、「親子で楽しめる時間」「笑ったりホッとしたりできる時間」を一緒に作ることを目指して、一年間活動してきました。また「お手紙ですよ♪ぼろろん」を2回、発行しました。(吉田)



和光3・11つながりカフェ【和光市】

昨年3月「和光3・11を忘れない」コンサート等でのチケット販売(復興応援募金)やさくら募金の収益を一部運営に充て3回「和光3・11つながりカフェ」を実施しました。和光・新座・朝霞市、豊島区、板橋区等各避難者、支援者30名が集まり、時には東北の味を堪能しながら、時には音楽を聴きながら、ふるさとを思い出す会、仲間作りの会になりました。来年度も継続してカフェを開催していく予定です。(和光市社協・小川)



つながろう!放射能から避難したママネット@埼玉【さいたま市】

昨年は新年会、アロマソープやクッキーなどの親子ワークショップ、プレーパーク、科学教室、クリスマス会、座談会を通し、「一人じゃない、みんながんばっている」と感じる時間を仲間と共に過ごしました。出会ったときは小さかった子どもたちは、すっかり成長し頼もしくなり、また、自分の世界ができて参加できなくなった子どももでてきて、避難生活の時間の長さを感じました。ずっとキラキラ笑顔で元気に成長してほしい!どこにいてもママたちの願いはみな一緒です!(木村)



大熊町交流会



大熊町の方の集まる交流会を2回開催しました。「今まで大熊町の交流会が開かれたことはないの、うれしい」「県外の大熊町民にも目をむけてほしい」など、さまざまな声が聞かれました。(大柿)



おあがんなんしょ【ふじみ野市】

26年度も参加者と協力者で、月1回の時間を共有してきました。当初のコンセプトである「癒しと交流」を大切に、参加者のみなさんの状況に合わせて少しずつ交流会の内容を変えてきました。決して無理をしないで、「出来る人が、出来る時に、出来るだけの事をする」を続けています。継続支援の出来る人を募り、東北県人会・メンタルサポーター他、高校生・大学生など異年齢の複数団体が積極的に協力しています。おあがんなんしょ繋がり転居者の皆さんに手作りのクリスマスプレゼントを贈ることもでき、絆を大切にしたい年でした。今年も又楽しい時間を共にしたいと思っています。(松館)



NPO和の音 WA-KU【上尾市】

和太鼓演奏による、被災者の驚きを支援に繋げる独特の手法で復興支援活動を展開。(矢澤)



寄り添いステーションころっせくわっせ双葉【加須市】

加須ふれあいセンターで双葉町の森さん・茂ちゃんコンビが茶まんじゅうを作って頑張っています。その茶まんじゅうを応援しようと、踊りつきの「茶まんじゅうマン音頭」が作られ、十文字女子大学のイベントなどに招かれ、双葉・加須・応援団の混成チームで踊ってきました。1月10日のいわきで開かれた、双葉ダルマ市では、いわき・つくば・加須の合同チームで踊りました。これまで皆様のご協力で「よりそいコンサート」を10回開いてきましたが、これからも双葉・加須・埼玉と手を携えて楽しく元気に進んでいきます。(山口)



さいがい・つながりカフェ【さいたま市】



安心して過ごせる場を目指し、今年も毎月2回(第2・4木曜日)開催してきました。毎回色々な方々が気軽に訪問してくれました。おしゃべりはもちろん、アロマ・マッサージ、お抹茶、手芸教室、気功体操、歌等々、思い思いに過ごす、にぎやかな場となっています。





青空あおぞら【所沢市】

子育て世代の皆さんも安心してご参加いただける保育付きの交流会を、新所沢公民館を拠点に毎月第4日曜日に開催。毎回、小さなお子さんからお年寄りまで、幅広い年齢層の皆さんにご参加いただいています。法律家やこころの専門家も参加し、これからの事について語り合ったり、参加者全員で料理をつくったり、こころ暖まる交流会としていつも賑わっています。(SSN・愛甲)

想い【鴻巣市】

会報誌“想い”は情報が届いていないなと感じて始めて、16号まで書きました。今は色々な立場の方、組織を含めると400部近くをお届けしています。封筒を受けとって下さる皆さんが会員だと思っています。三郷支局長も登場してもらうようになり、交流会情報も幅広くなったかな？

一方、鴻巣として集まってきた方々とのつながりも大事。物資を頂けば、お届けに行ったり、メールしたり…。

この一年は、賠償相談会、学生座談会、対話集会などその時その時大事だと思う事をしてきましたし、福玉の輪が繋がっていくお手伝いもしました。HP管理・鴻巣地区ママランチ会・新聞記事スクラップ等も担当の方が頑張ってくれています。(篠原)



向原団地被災者の会【上尾市】

私達は、毎月楽しく交流をして来ました。皆さんが料理上手なので、代わる代わる講師となって得意料理を教えてください、披露してくれました。回数を重ねる事で皆が馴染んで、互いの距離感も縮まり、頼り合える仲間のようになっています。(富永)



東日本大震災に咲く会ひまわり【上尾市】

3月11日(火)、東日本大震災追悼式を開催し、黙祷後、ひまわりを描いた旗に寄せ書きをしました。6月14(土)、映画「原発被災地になった故郷への旅-福島県南相馬市-」の上映会を開催し、出演者の志賀泉、監督の杉田このみ両氏をゲストとして呼びました。9月20日(土)、「ここカフェと出掛ける ひまわり～巾着田ハイク～」を開催し、日高市に群生する曼珠沙華を訪ねました。12月6日(土)、ひまわり忘年会を開催し、料理は出来るだけ手作りで持ち寄ってもらいました。ひまわり以外に団地内外から参加がありました。その他、毎月第一土曜日に会合を行いました。(橘)



新座つながりカフェ【新座市】

2014年の新座さいがいつつながりカフェは、東京新聞とコープみらいの助成金を受けられたことで、1月手打ちうどん作り、4月花見、5月野火止緑道・野鳥の森散歩と東京スカイツリー行き、7月医療生協による健康チェック、8月カラオケ・盆踊り納涼会、10月ネックレス作成、11月他団体イベントへの参加等の活動ができました。「住宅」問題等不安な思いを抱えながらも束の間ながら楽しい一時になれるように、と願いつつ。(谷森)



ここカフェ@川越【川越市】

今年の「ここカフェ@川越」の活動は、JUNホールという屋外でも屋内でも充実した設備の整った場所の利用が出来たことで、畑から野菜を自分で採ってすぐに焼いて食べるという、貴重な体験が出来たり、お弁当ではなく自分たちで手作りしてお昼を食べたりして、楽しい時間を共有することが出来ました。

子供達も立教大学の学生さん達の協力で、遊びながら学ぶことが出来ました。(鈴木)

つながりの会【草加市】



草加市では、被災者の皆さんに情報を提供するため「草加市被災者つながりの会」を発足しています。主な活動内容は、情報誌の発行と東北復興支援販売会(毎月第2木曜日)のほか、バス旅行(スカイツリー見学)、市内の施設見学、茶話会など、多くの催事を行ってきました。情報交換の場では、故郷が同郷の方とお会いするなどビックリすることが多く、会話が弾んでいます。(草加市役所・池島)

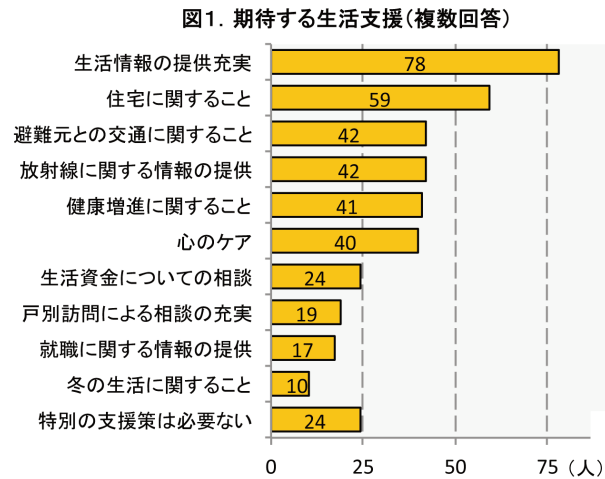


『福玉便り』読者アンケートから

『福玉便り』では、一昨年度・昨年度に続く3回目の読者アンケートを、昨年12月に実施しました。アンケートは編集部に住所をご登録いただいている560世帯と、狭山市・草加市・川越市・ふじみ野市・所沢市の市役所経由で発送している465世帯にお送りし、ただし、発送の重複があります）、140人の方からご回答をいただきました。ご協力いただいた皆様に、改めてお礼を申し上げます。ここでは自由記述を中心に、アンケートの結果をお伝えします。（編集部・原田、西城戸）

1. 生活支援について

まず、どのような生活支援を期待しているか尋ねたところ、図1のような回答がありました。このうち最も回答の多かったのが「生活情報の提供充実」。



次いで「住宅に関すること」でした。

自由記述には、避難先市町村からの生活支援の継続を望む声とともに、避難元・避難先の市町村によって差が出ていることが挙げられていました。

・毎回の広報を送付してくれる。(情報、現況はわかるが参加は日程時間、経費、体力、難しい)イベント交流の支援を続けてくださり感謝します。さいたま市広報の配布、福玉便りの情報は助かり、日々の生活に役立ちます。

※ご回答いただいた方々の性別・年齢・避難元の地域の分布は、以下の通りです。
〔性別〕男性61人、女性73人、未記入6人
〔年齢〕二十代1人、三十代13人、四十代26人、五十代24人、六十代40人、七十歳以上32人、未記入4人
〔避難元の地域〕岩手県4人、宮城県10人、福島県123人(浪江町27人、南相馬市22人、富岡町17人、双葉町12人、大熊町10人、いわき市9人、楢葉町3人、その他23人)、茨城県1人、未記入2人

す。上下水道料金の割引支援は家計の心細さを和らげてくれます。(南相馬市↓さいたま市、60代女性)

・現在、水道代減免の支援を受けています。26年2月までもう少し続けてほしい。助かります。いろいろな交流の場を考えていただき元気をいただいています。(南相馬市、越谷市、60代女性)

・県内避難と県外避難に差が生じています。又、町により生活支援も違って来ています。埼玉県内でも町により支援の差が生じております。自分ではしかたないときあらめていきます。(楢葉町↓さいたま市、70歳以上男性)

・避難元からの生活支援や交流会はあまりない。書類だけでなく電話でも良いので連絡し

2. イベント・交流会について

期待するイベント・交流会について尋ねたところ、図2のような回答がありました。埼玉県内では各地で交流会が実施されており(6、7ページのマップ参照)、今後も交流会の継続を期待する声が根強くあります。

・間もなく避難5年目に入ります。交流会などでは大変

てほしい。タブレットを見てもグループなどがある人達ばかりです。そこからもれている人達の状況がない。避難先からは全くない。(浪江町↓上尾市、70歳以上女性)

「放射線に関する情報の提供」には次のような声がありました。

・今度、放射線の危険性について。何かあれから研究とか進んでいるかもしれないと感じるので。そしてだんだん忘れそうになるので(目に見えないので)改めて正しくかわがりたいです。なので、そういう勉強会をお願いします。(福島市↓和光市、30代女性)

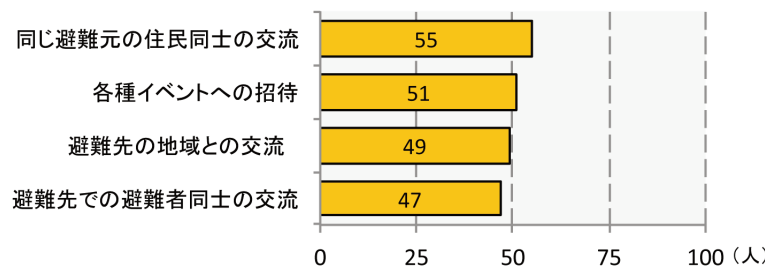
浪江にはこの年(84才)では帰れません。どうしたらよいでしょう。(浪江町↓川越市、70歳以上女性)

次に、中学生以下のお子さんをお持ちの35人に、子育てに関する支援への期待をお尋ねしたところ、図4のような回答がありました。回答が多かったのは、「教育や学習塾に関する情報」や「子供が楽しめるイベント情報」です。とりわけ教育に関しては、高校受験や進路に関する情報交換を期待する声が自由記述に寄せられました。

・中学や高校受験に備えての情報。英語などの習い事への学習支援(二重生活の為、貧しくて習えない方が多い)ママを育児から数時間だけ解放してくれるリフレッシュキケットがあると救われると思います。家族を増やしても産後の支援がないと育てられない不安を解消出来るように周りのサポートが必要です。(いわき市↓川越市、40代女性)

・7月号で埼玉県の高校入試の仕組みを取り上げて頂きありがとうございます。(浪江町↓川越市、40代女性)

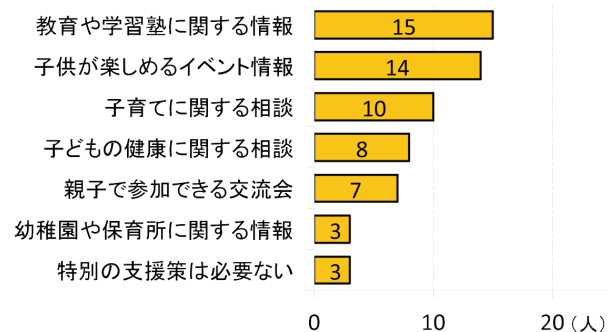
図2. 期待するイベント・交流(複数回答)



お世話になり元気を取り戻した感じですが。私はここに永住することを決めましたので、もっと埼玉県、また隣県の状況を知りたいです。例えば他の交流会と合流しての話し合いとか。(双葉町↓所沢市、70歳以上女性)

・すぐ近くにいらつしやるだろう避難してきている方との交流ができれば良いと思う。大イベントの交流会より小さくても心が通い合える会がいいです。(富岡町↓鴻巣市、40代女性)

図4. 期待する子育て支援(複数回答)



てもくわしくわかりやすい内容でしたのでこれから受験をむかえる私達にとってはとてもありがたい情報でした。(浪江町↓所沢市、40代女性)

また、避難先とのママ友との関係に悩んでいるという声も挙げられました。

・なかなかママ友になじめず、子育てを相談するママ友ができません。進学するに当たって地域の事も分らず、役員など引き受けなければならなので個人差はあると思いますが、私は心労でしかたないです。地域になじまなければならないのですが…。(浪江町↓川越市、40代女性)

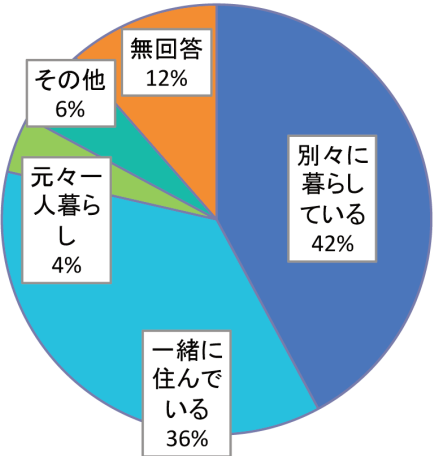
ただし自由記述からは、交流に行きづらいという方が少なくないことがわかりました。4年が経過したことで、これまでの交流会に馴染んでいる方とそうでない方との間に、意識の差が生まれてしまっています。

・今さら交流会に参加しても中々、皆の輪の中に入りづらいです。でも情報はほしいので福玉便りはいつもありがたいと思います。イベントに参加できる時間がないのでさみしいと思いますが、生活しているぶんには新しい友人もできたので今のペースで暮らしたいとも思います。(福島県↓埼玉県、70歳以上男性)

・避難してしばらく経ったところ、避難者同士の交流会に何度か参加させてもらったが楽しむという感覚になれず、今はイベントや交流会への参加はしていない。(浪江町↓所沢市、40代女性)

・交流会は一部の人のしか楽しめない。忘年会、新年会の参加費無料とするなら避難者全員に公平にいきたる支援(生活費支給など)にした方

図3. 家族との同居・別居



他方で、震災前とは別々に暮らしていたご家族との同居に関する悩みを挙げてくださった方もいました。

・息子は18歳の時から浪江を出て埼玉に暮らし家庭を持ちました。私は浪江から避難して同居させてもらっていますが、嫁とうまくいかず毎日が辛いです。

町↓ふじみ野市、30代女性）

さらに、高齢の家族への介護や医療の負担に関する記述も多く書かれていました。

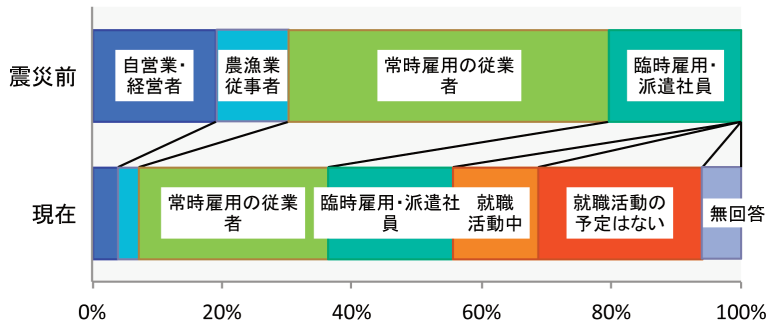
・93歳の母が介護4ですが現在は娘の所に世話になっています。引き取った後の住宅介護等々がとても不安で気が重くなっています。（浪江町↓さいたま市、60代女性）

・母が入院（死にたい、福島に帰りたい等言い出し）精神科、その後同院の施設入所、現在もお世話になっている状態、医療費はかからないですが、その他で月22、23万程かかり東電と室代等8万ほどかかっている金額がいただけるかで生活がまとまってません。それが今後心配です。（福島県↓埼玉県、60代男性）

4. 仕事について

震災前と現在の世帯主の仕事について、震災前から何らかのお仕事をしていた99名の回答を集計したところ、図5のようになりました。震災前とは異なる職種にしている方や、就職活動中の方、休職中の方が多くいらつしやることがわかり

図5. 震災前と現在の仕事



自由記述には、これまでの仕事を失う苦しみや、埼玉での就職に関する困難を抱えている方が多いという現状が浮かび上がりました。

・自動車ディーラーとして営業活動をしてきたので、他所に出店するには土地、建物、機械設備、地盤、固定客、従業員など、人、金、物への投資は大変です。残念ですが、いずれ廃業の見込みです。（富岡町↓幸手市、70歳以上男性）

・会社の方針により、いよいよ退職措置が決まり、今年末の日付で退職届を提出しました。これでまたひとつ縁が切れてしまうのかと思うと何か詰まるものがあります。やりがいのある職場だったので何事もなければ、ずっと続けていきたい仕事でした。（双葉町↓朝霞市、40代女性）

・常勤の共働きであったが、今は収入が半分。父親の収入が主。子育てを助けてくれていた祖父母や姉弟、親戚、友人の存在がなくなり、母子家庭状態。働きたくても思うようにできない。パートをはじめたが働ける日が少ないです。（富岡町↓鴻巣市、40代女性）

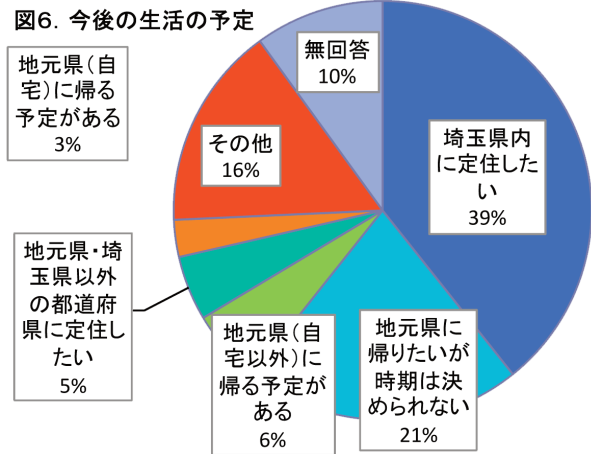
・父親が転職できれば福島へ戻らず、埼玉で生活を続けることが出来るので、年収が同じで職種を同じく受け入れてくださる企業へのあっせんがあると人生が救われます。4年の時間が地元への戻りにくさと交友関係の悪化を招いています（埼玉に残りたいと思っています方は多数います。（いわき市↓川越市、40代女性）

5. 今後の生活の予定について

こうした事情を考慮すると、再就職へのサポートは、避難生活が長期化する中で「層重要になつていくと言えます。

今後の生活の予定について尋ねたところ、図6のような回答が得られました。一昨年の12月に実施したアンケートと比べると「埼玉県に定住したい」「地元県・埼玉県以外の都道府県に定住したい」が若干増えたとも言えますが、自由記述を見ても言えます、自由記述を見ても、埼玉県や他県への定住を希望している方、帰還を希望しながらすぐには帰れない

図6. 今後の生活の予定



次に、「地元県に帰りたいが時期が苦労が続いている。工事車輛通行で朝夕に渋滞が起こり、道路はデコボコ、埃が舞っている。公立高校の風上に仮置き場できた。（南相馬市↓さいたま市、60代女性）

は決められないという回答にも、復興住宅・インフラの整備や除染の状況、家族の事情などで迷っているという記述が複数ありました。

・地元県で希望する場所、復興住宅が全然進んでいないので、早急に建設してほしい。（浪江町↓東松山市、40代女性）

・埼玉での生活にもだいぶ慣れてきて、子供達も友達ができ、居心地が良そうにしているが、時折福島に戻りたいと言われる。嬉しい反面、まだインフラの整備も除染も済んでいないので、帰還するタイミングを図れないでいる。住宅を購入したら戻りづらくなる。（南相馬市↓川越市、40代男性）

他方で、「埼玉県に定住したい」と答えた方も、「帰りたい」という気持ちを抱きながら埼玉で生活されていることが伝わってきます。

・せっかく仕事が決まったのに「福島に帰ってきてもいいですよ」と言われても、すぐに帰るという決断ができません。今の生活に慣れたのに福島へ帰って新しい仕事をまた一から

探すのは厳しいです。職場の近くに家を決めたいと思うのですが、家を買うほどの補償はなく、新しく借りるときは保証人とかがいらないので、そのあたりを相談にのつてくれて最後まで手をつくしても、戻るところがないものかと悩んでいます。（福島県↓埼玉県、70歳以上男性）

・福島にいたときは身障者対応の公営住宅（いたるところに手すりがあった）に住んでいましたが、埼玉県は福島県と取り決めが違い、身障者であつても4級以上ではないと、そのような県営や市営には住めませんし、そもそも夫婦2人だけの世帯は公営住宅に申し込めず困りました。最近再び手術し体がより不自由になりましたが、手すりのない民間のアパートに住むしかなく、助けの必要を感じます。（いわき市↓羽生市、40代女性）

・介護施設を含めて住宅をどこに、いつ決めたら良いか？決めかねている状況です。住宅を移した場合、故郷とのつながりがなくなってしまう気がします。（浪江町↓蓮田市、50代男性）

・今後埼玉県に定住することと思っています。故郷は帰還困難区域なので、除染その他生活できる環境にいつになるのか？孫達とは別の家で生活しているのですが、孫達はできれば高校、大学とこの地から通学したい希望もあるようです。現在、家族は3カ所に別れて生活しています。（大熊町↓深谷市、70歳以上男性）

「地元県・埼玉県以外の都道府県に定住したい」と答えた方も、土地などの関係で迷っているという声がありました。

・失ってしまった故郷のようなところで子供を伸び伸びと育てたいというのが正直なところですが、家族が一緒に暮らせる日が来るのを何より望んでいます。被災した土地や家に相当するものを求めるのは到底不可能なことですが、最低限の土地を購入しようにも、どこも値が上がり、それさえも困難になってきています。損害賠償の手続きが滞っている現状では日々の生活がやっとで、なおのこと先が見えません。（双葉町↓朝霞市、40代女性）

これ以外に、「その他」や「無回答」を選んだ方からも、回答を選択できない気持ちが多数書かれていました。

・戻る時期が明確に示されていないので（10年は戻れないと思っている）、埼玉の現在の地に住もうと考えている。（双葉町↓さいたま市、60代男性）

・現在の収入で補助がなくても生活ができることを探し、そこで生活する以外に方法はない。生活できないときは、またその時、考える。（楳葉町↓川越市、40代男性）

・子供達の進級に伴い埼玉県内に定住かな...と思いつつも、まだ決断できないです。以前、団地に住んでいたため借り上げ住宅が終了した時の家賃が倍以上になることに不安がある。しかし学区内に空きのある団地がないのと、福島県内の復興住宅も頭の隅にあります。（浪江町↓所沢市、40代女性）

このように、迷っているという点ではどの立場の方々も同じだという現状を、改めて共有したいと思います。

方、定住と帰還の間で揺れ動いている方、いずれも難しい選択に立たされていることがわかります。

まず、「地元県（自宅）に帰る予定がある」と答えた方の中には、地元が変わってしまったことへの悩みを挙げている方がいました。

・地元（自宅）が変わりすぎて、帰宅準備に戻る度に悩み事・心配事が増え、それが個人の力では解決できない内容・事態であり、帰る意志がゆらぐこの頃です。情報の中身が表面と詳細、公と地元では「温度差がある」という言葉がピッタリあてはまる実情・内情・苦労が続いている。工事車輛通行で朝夕に渋滞が起こり、道路はデコボコ、埃が舞っている。公立高校の風上に仮置き場できた。（南相馬市↓さいたま市、60代女性）

6. 最近感じていること

最後に、「最近感じていること」という自由記述欄には、避難生活や今後の事に関する不安や苦悩が、数多く寄せられました。そのうちのいくつかを掲載させていただきます。

①自分の住み慣れた生活が奪われてしまったことへの悔しさ。

・県外に来たばかりの頃は二日一日を過ごすのがとても辛く、虚しく、周りの風景（例えば桜がきれいに咲いているのに）を見ても、それすらも感動もなにもしくしく過ぎていきました。最近それが少し変わって、自宅の住宅等を見ると、行くとくに壊れていくのが本当に辛く悲しくなります。（大熊町↓桶川市、60代女性）

・東京電力の震災事故のため故郷を避難して、もう4年目を迎える。部落の人々と親戚の人達と全員バラバラに避難したのが残念です。私は退職後、残りの第2人生を楽しく夢と希望を持ち畑を耕し野菜、果物の木を植えて収穫の喜びを家族全員で生活し

ていた、みどり豊かな環境と自然の中での生活。春は山に山菜取り夏は熊川でアユをとり、孫たちはかぶと虫をとり、キノコをとり、果物の実を収穫の喜びを楽しんでいた。そして月日が経つにつれ東京電力への憎しみが増すばかりです。現在、自動車運転しているが6月に免許証を返上します。もう84歳ですの、これからは医師と買い物に行くのに不自由生活になります。故郷で楽しく暮らし、いたのになあ。大熊町↓深谷市、70歳以上男性)

住まいの片づけに行ってきた。40年間生活していたものすべてゴミになりました。考える時間もなくなつた。3時間で帰りの電車の中で涙が止まりませんでした。ほんとうに悲しいです。(富岡町↓東京都、60代女性)

②とりわけ一人暮らしの方の、避難生活における孤独感。目的が見えないので何を目標にしていけば良いのか、元には帰れず現在の所で先の事を考えると不安のみです。楽しい一日があつても次につなぐものがないので一人暮らしがこんなに不安になると思ひ

ませんでした。(南相馬市↓越谷市、70歳以上女性)

このまま二人で孤独死するの、かと思う。同じ区域で別世帯でいる孫2人となかなか会えない。さみしくて子犬を飼いたい。(いわき市↓さいたま市、60代女性)

一人暮らしになってから不安なことばかりだったので、うつ病とかにならないよう、なるべく何事も考えないようにしている。その為か何にも感心を持ってなくなり一日をボーっとしている。生きているだけでいいのだろうか?(南相馬市↓川口市、50代女性)

③震災・原発事故が風化してしまふことへの不安。

3年9か月が過ぎ、だんだんと忘れられつつありませんか?風化させないでください。田舎はこの日のまま何も前に進んでいません。逆に廃墟になつてますよ!皆さんからの声を継続してください。(浪江町↓蓮田市、50代男性)

避難当初、不安な気持ちを出ていた子供達も今の生活に慣れ、安定した心持ちで過ごしていることが嬉しく思っています。ただ、福島県のように震

災に関わる情報が普段の生活で見聞きする機会が殆どないし、周りの地元の方も話題にすることがないので、子供達には「まだ終わっていない」ことを折に触れ伝えていきます。小さい頃の経験でも、経験した者として忘れてほしくないなあと思ひます。(浪江町↓所沢市、40代女性)

世の中がアベノミクス色で原発問題がすっかりうすれていること。私達、避難している者は避難しているということ自体だんだん少し恥ずかしい感じになつてくること。福島は、ほとんど変わつてないのに、すっかりなれ様々なことがうすれていくことに不安を感じています。(福島市↓和光市、30代女性)

こうした不安や苦悩を軽減するための心のケアとともに、震災・原発事故を風化させないための取り組みが、引き続き求められています。

7.こぼれ落ちてしまふ声を拾うために

昨年度の『福玉便り春の号外』では、読者アンケートの結果を踏まえつつ、「●●は○

○%』という表記には分析データに偏りがある可能性と、そこから出てきた数値自体が世間で一人歩きすることを問題視しました。そして、多様な立場の方が多様な支援を必要としているという現状を踏まえて、「こぼれ落ちてしまふ声をどのよう丁寧に拾っていくのか」という点が重要だと指摘しました。それゆえ、今年度も自由記述を主に紹介しています。

今年度の結果を見ると、昨年とほぼ同じ状況であり、むしろ孤独感や不安感を深めている方が少なくないことが浮かび上がってきました。自由回答に寄せられた皆さんの声は、支援のあり方を巡って、時には対立する意見も確認できます。しかし、さまざまな意見の存在を共有し、そこから「いま、ここ」の解決策を探っていくことが大切であると『福玉便り』では考えています。

『福玉便り』では引き続き、多様な実態を把握し、その情報共有から問題点の解決を目指していきたいと思ひています。読者の皆さんからのさまざまな「声」をお待ちしております。

福玉便りは、月刊で4000部発行しています。たくさんの方のお力をいただいて、毎月避難者の皆さんのもとにお届けしています。

福玉便りのお届け作業と一緒にやっくださる方、大募集可能なお時間で。

たまたま時間あいてるよ、という方が、いらっしやいましたら、ご連絡おまちしています。避難者のみなさんも毎月参加していただいています。労福協048-833-8731まで。

ありがとうございます!

通常号の印刷は、『富士ゼロックス埼玉端数倶楽部』(社員ボランティア)の皆様に全面的にご協力いただいております。

ありがとうございます!

「赤い羽根共同募金の災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(ボラサポ)の助成金もいただいて、発行しています。(2014.9~2015.8)



●福玉募金の送金はこちらへ

郵便振替口座▶ 00160-0-291210

銀行▶中央労働金庫さいたま支店 普通預金6600705

問い合わせ▶認定NPO法人ハンズオン!埼玉 TEL048-834-2052

※寄付金には税制優遇措置があります。

集まりながら、訪ねながら… 読者アンケート結果を受けて

埼玉県内では各地で避難者の方々のグループが結成され、地元行政・ボランティアと連携しながら、交流会や相談会といった取り組みを進めています(6~7ページのマップ参照)。

こうしたグループや支援団体・行政関係者をつなぐ連絡会議「福玉会議」が、2012年7月から隔月で開催されてきました。また、福玉会議の参加者が40名近くに増えたため、グループのリーダーの方々が小規模に議論をする「福玉リーダー会議」も、2014年6月から始まりました。

第4回リーダー会議(2015年2月3日)では、読者アンケートの結果を見ながら、避難者の方々の現状について議論をしました。その一部をご紹介します。(まとめ■編集部 原田)

永田(編集部、埼玉労協事務局長)：読者アンケートの集計を見ますと、昨年度と同じような数字が出まして、グラフの形も全く同じになっていますよね。ただ、「避難先での避難者同士の交流」や「各種イベントへの招待」が昨年度よりも下がっています。この辺のことについてのご感想や、まもなく5年というところで現状どうなのか、何が必要なのかを、話していただけたらと思います。

木幡(富岡町から久喜市に避難、「お茶っこふるさと会」代表)：久喜でお茶会をやっているん

鈴木(南相馬市から鳩山町に避難、「鳩山町



2014.4.05
マランチ日高牧場

私たちの交流会に関係している人の中にも、健康の問題、心の問題に悩んでいる人が多いんです。話を聞

避難者の会」会長)：イベントの希望が4割を下回ったというのは、これはこれでいいと思ひます。ただ、残り6割の人で、孤立化している人がもしあれば、大変なことになると思ひているんですけれども。

家族について、介護に関する記述があるんですけども、埼玉に4年いると、やっぱりその問題なんです。田舎は特老(特別養護老人ホーム)とかが雇用の場でもあつて、いっぱいあったんです。入りやすかった。埼玉はないんですよ。そういう危機感を持っていただけならなと思ひます。

松館(ふじみ野市在住、「おあがんなんしょ」実行委員長)：アンケートを拝見していて、心の問題、健康の問題がちよつと増えているな感じがします。



「おあがんなんしょ」の相馬盆踊り
2014.8.30

いしてみると、みんなで交流会に行つて楽しむのも良いけど、何か愚痴を聞いてもらいたいんだよつていう電話がかかってくる事もあり、電話では1時間ぐらいいしゃべることもあります。だから、交流会は交流会として置きながら、個別的に心に関わつていかなくちやいけな

それと、おあがんなんしょつながりで、転居していった人たちに、クリスマスプレゼントをつくつて贈りました。皆さんから電話が来たり、お手紙が来たりして「忘れていらつしやらなかったんですね」とか「覚えてくれていてありがとう」とか、「今、孫がこんなに大きくなりました」って写真送つてくださったりして、私たちは関わった人たちのつながりは大切にしていきたいなつて考えていま

富永(白河市から上尾市に避難、「向原団地被災者の会」代表、福島県復興支援員)：上尾の雇用促進住宅では4年目を迎えるに当たつて、皆さん、次の生活の基盤をどこにしようかとそれぞれ、家庭の事情によつて考えていらつしやいます。

今まで2年間交流をしてきて、心の拠り所としてはあつたのですが、やはり次に行かなくてはいけないというステップが来つていて、でも、どこにどう

高橋(南相馬市から熊谷市に避難、福島県復興支援員)：南相馬市は来年には解除命令が出るつていう予定ですから、困っているんですよ。みんなはどんなふうにかえてるのかつていうのは、やっぱり地元の避難者が集まつて話するしかないんだけど、なかなか聞けない。

交流会でも本当は、地元の小集落で集まつてもらうのが一番いいと思ひてるんですけど、なかなか厳しい。なかなか集まらないし、避難元の町が違つと何の話するかもできない、というのが実態なんです。

求めたらいいのかわからない、
 最中でいいです。ですから、それ
 ぞれの家庭によって生じている
 問題を解決していかないと
 いけない時期にきているのか
 々と実感しています。

篠原（浪江町から鴻巣市に避

難会報誌「想い」を発行。アンケ
ートで気になるのが、「就職に
関する情報」への要望が結構下
がっているなっているところ
で、就労意識が下がっているの
か、それとも、もう十分足りて
きているのかっていうところ
をもうちょっと突っ込まない
といけないと思います。生活資
金のところに直結するので、こ
の情報がもうちょっとほしい
なっていると思いますね。

あとは、「今後の生活の予定」の円グラフが特徴的で、昨年から本当に変わっていないというのと、私からすると、自宅に

石上（浪江町から越谷）

すけど。1月24日にやった対話集会「専門家・住民・国・東電と「今と未来」を考える対話集会」で、「帰りたい、帰りたくない」以外に「待ちたい人」っていうことで質問を試みたら、やっぱり「待ちたい」という気持ち

はあると。でも、いつも聞かれるのは「帰るか、帰らないか」「移住するか」という選択肢で、気持ちとして「待ちたい」というニーズがあるというのが知らされていないことの問題を、私はすごく感じています。

橋 浪江町から上尾市に避難、「シラコバト団地東日本大震災に咲く会ひまわり代表」…昨年12月に同じ団地の避難者から連絡が来まして、「この春ぐらいにめどに団地を出て自活したいんだけど、仕事っていうのはハローワークに行ったほうがいいのか」という質問が来たのですけど。そういう相談が2件ほど続きました。こっちでの仕事、そして部屋を求めているという事例が2つほどあったので、今後も出てくるんじゃないかなっていう気がしています。

橘（浪江町から上尾市に避難、

よ。越谷市内には避難者がかなりいるんですけど、なかなか出てこない方もいるんですよ。だから、その方なるべく引っぱり出すような感じでやってきたいと思っています。

どこのサロンも、やっぱり集まってくる人は同じ人ばかりなんです。どこへ行っても、顔見知りばかりなんです。そうじゃなくて、やっぱり来たくても来れない方だっているですよ。そういう方をどういうふうにして引っぱりだすかっていうのは、やっぱりこれからの課題です。

佐藤(富岡町から杉戸町に避難、杉戸元気会代表)：住宅に關すること、実際の住宅購入とかそういうものについては、今年中ぐらいにピーク過ぎると思うんですね、賠償とのリンクがあると思う。その後は、借

佐藤(富岡町から杉戸町に避



難、杉戸元気会代表）…住宅に
関すること、実際の住宅購入と
かそういうものについては、今
年中ぐらいいピーク過ぎると
思うんですね、賠償とのリンク
があると思って。その後は、借
り上げ住
宅の打ち
切りと
か、そう
いう形で
今度は関
連性が出
てくるん
じゃない

越谷避難者の会第1回
2014.10.11



越谷避難者の会第1回
2014.10.11

かな。

住宅に関することは、公的な情報もちろんベースに大事なんですけど、「こちらで結婚もしたので、親も呼んで近隣に住むことを考えている」という相談があつて、私がこちらで長く不動産をやっている方と繋がっていたので間を取り持ったら、30件ぐらいの情報を持つてこられて。実際自分たちで見て、将来の子育ても含めて総合的に勘案して選べるというような、生の情報、がうまくコーディネートできたてよかったですかなと。今度NPOを設立して1月末に法人登記できましたので、その方だけじゃなくて、情報を欲しいという方にタイミングよく出せるような形でつないでいければいいかな。つていうことを考えています。



双葉町埼玉自治会盆踊り大会
旧騎西高校 2014.08.23

協と役場と
二つあって、
民間として
もやってい
きたいんだ
けれど、そ
こに一つの
民間団体だ
けというの
はできない
のです。その際に「自治会」と言
ったほうが話が通用する場合
もあるんですよ。今、自治会
としてやっているのが県外に
おける復興住宅の問題などで
す。

民間だと、これから県外避難者は特に運営費だったり助成金も難しくなる中で、そこをどう長く続けていけるようにするのかというのが課題ですね。

永田：皆さんからご意見を
いただいて、我々が方針を持
つとすれば「各地のサロン・交
流会の活動と復興支援員事業
の連携」ということになってい
くのではないかと思います。今、
避難元自治体で言うところの
江・大熊・富岡、それぞれ町ご
との復興支援員がすべて埼玉に
います。その内の浪江と富岡は

訪問活動をしています。そして、それ以外を福島県の復興支援員が訪問に行くことになりました。

幸い、いろんなところに交流会・サロンがあるので、そこですながっている人もいますが、30人ぐらいつつ20カ所ですやっていたとしても、せいぜい600人ぐらいいしかカバーできていない。5、000人避難しているうちの、10分の1ぐらい。たくさんいるうちの元気な行動力がある人しかここに参加していないわけですから。

逆に、復興支援員はどちらかというと、交流会に来ていない人を捜し出す。だから、ここをちゃんとうまくやっていけると、少なくとも埼玉に避難している方についてはいろんなサポートや何かができるんじゃないかと。



負けねっ ちゃ・きらり
2014.8.23 伊奈まつりにて

自主避難の方も、自主避難の方をメインにした集まりとか支援策を出す。なおかつ共通するところとして、避難指定地域だけと結果として母子になっている方もいっぱいいるので、子どものことを含めた母子の政策にうまくつなげたいということなのです。

そういう意味で、サロン・交流会の役割として、「楽しくなきゃ人は来ない」というのと、「でも、それぞれ避難している人が表には出せないけれど、いろいろ悩み・疑問・困り事を抱えている」、この2つをうまく解決していく必要があります。

解決というか、人を集めるというのは孤独から守るという意味ではすごく大事でやらなきゃいけない。その中にうまく生活情報というか、例えば賠償の情報、あるいは地元の避難元の情報提供できると更に強い味方になっていけると思います。

鈴木:お子さんがいる方に聞きたいんですが、もう4年たつて5年目でしょう。そうすると、当時小学校に入った子はもと、今度は小学校5年になって、

小学校卒業した子は高2になっ
ていますよね。その子らに対
して「あなたの故郷は浪江よ、
双葉よ」と言っていますか？

篠原:うちの子には言ってい
ます。下の子に関して言うと、
成人式は同窓会のような感じ
なので鴻巣でさせたいと思い
ます。でも、浪江でもできる
のであれば両方参加を私たち
は望んでいるし、何より彼自身
は「浪江のおうちに帰りたい」
と言っているのです。

子供たちはあの日出てきた
ままなので、見たいことは見た
いし、結局気持ちで卒業できな
い。でも、荒廃しているという
のはやっぱり親から聴いてい
るから、行くのも怖い、見るの
も怖いんだけど。

こちらになじんでいるとい
うのは、学校行事をこなしてい
るんだもの、自然な流れだと思
います。でも、どこかで心残り
は、やっぱりずっとくすぶっ
ている。

あのとき



つなごう!放射能から避難
したママネット@埼玉
別所沼プレーパークにて
2014.07.12

でも、それを最終的に決めるのは、子どもたちが成人するなり自分の判断ができる年になっ

られる姿だと思っ
ているし。

沼田目であり続け

たときに自己判断させるべきであって、その家族ごとで子どもと対話しながら決めていいると思ひます。

鵜沼：うちの娘の世代だと、やっぱり双葉は双葉なの。子どもたちのほうで、割とドライにしっかりとっているから。だから、やっぱりそれは「大人が割り切りなさい」と言うんじやなくて、子ども心の段階を経、子どもが決められるようにしてあげればいいんじゃないかな。

永田：今日はここで一旦切りますけれど、子どもと一緒に避難されている家にとってはやっぱり重大なことだと思ひます。子どもにとつても、すつきり割り切れてそのまゝの子もいるかもしれないし、割り切つた振りをして親を心配させないようにしている子もいるかもしれないし、いろいろあると思ひます。これからしっかりとつていいます。

今日のリーダー会議については以上で終了させていたいただきます。どうもありがとうございました。

自主避難者の声と、その背景にあるもの。

※「自主避難」という言い方には、「自主的である」という印象を与え、問題の本質をとらえていないという点から批判もあります。筆者は、その批判の主旨に賛同していますが、ここでは便宜的に避難指示区域外避難を「自主避難」と書かせていただきます。

埼玉県は東日本大震災・福島原発事故の影響で5、505人の方が避難生活を送っており、全国で2番目に多いとされています。その中でおよそ1、200人、約300〜400世帯の方々が、避難指示区域外からの自主避難だと想定されます。多くが小さいお子さんを抱えて母子で避難し、困難を抱えたまま孤立しがちな状況にあります。

こうした状況に対し、2014年から自主避難の方々の交流会「ぼろろんカフェ」が立ち上がり、イベントやお便りの発行を行ってきました。ここでは、自主避難中の方たちとの対話を元にくくつかの「つながりにくい理由」や「困難な状況」をお伝えします。（編集部・吉田）

◆立場の違い①

―避難指示の有無をめぐって―

「避難者」と一言で言っても、それぞれの状況によって、抱える問題や悩み、思いも違います。その違いのもっとも大きな根幹は、「国による避難指示の有無」になります。

自主避難の方の多くが、「放射線の影響から子どもを守りたい」という思いで避難を続けています。しかし、周囲との放射線に対する認識の違いや、国から避難指示が出ていない引け目な

ことから、そのことを伝えにくい、という声が聞かれています。

「避難してすぐのことだけど、『帰れる家があるのになぜ避難してきたの？』と、強制的に避難されている方に聞かれて……。もちろん、その方にはまったく悪気はなくて、純粹に不思議に思っていたようだったけれど、『放射線から子どもを守りたい』って、うまく伝えられない気がして、何ていっていいのかわからなかった。

それに、『私には家があつて申

ない、と話す方もいらつしやるのです。

◆出会いと対話でうまれたこと

埼玉県に住む時間の経過とともに、新しい出会いもあった、と話してくださる方もいます。そのつながりによって、「ここに居てもいい」という思いを得ることができた、と教えてくださる方もいました。

「避難当初は、3か月で帰るつもりだったから、ママ友のコミュニティを壊したら申し訳ないと思って、挨拶くらいいしかなかったの。だけど、避難から1年後の保護者会で、『自主避難してきている』ということを思い切って伝えてみたら、涙を流して聞いてくれた方がいてね……うれしかった」

「数人のママ友とお茶をしているときに、思い切って話をしてみたら、『福島の話聞けてよかった。何も知らないし、知るきっかけもないし、改めて現状を聞いて、自分も学ぶことがたくさんあった』と言ってもらえて……それがきっかけで、『困っている人に何かしたい』と一緒に考えてくれたの」

少しずつ、新しいつながりが広がりとつづあることも、事実です。

たとえば、川越市の子育てネ

し訳ない」という気持ちにもなつて、こういう交流会には行つてはいけなかな……。と、その時思いました」

と話してくれた方もいました。

最近では、どの地域からの避難されている方も楽しめる交流イベントを開催する一方で、「避難元特有の問題の共有をした」というニーズにこたえるため、あえて避難元地域別を設定した交流会も、埼玉県内では開催されています。

◆立場の違い②

―地元への思い―

また、自主避難の方の多くが口にするのは地元への申し訳なさです。

「私だけが避難してしまった、という負い目や、復興のお手伝いができなくて申し訳ない気持ちがあります……」

「今も福島県に住んでいる人がいるのに、自分は住めないと思っていることは、やっぱり言えないです」

「今なお、避難したい、と思っている人がいることを考えると、何とかしたいな……と思うんです」

など、筆者は何度も耳にしています。

帰省すると、福島県の親戚知人から「いつ帰ってくるの?」「もう大丈夫だよ」という、「待つ

ネットワークでは、「避難の話聞かせてください」と連絡があり、地元のお母さんと、自主避難の方との座談会をひらきました。避難当時の状況、避難の困難さ、そこで得た防災の知恵をお話していただき、地域に配布する冊子に掲載されています。

◆先の見えない不安を抱えて

《立場の違うことによるつながりにくさ》《賠償のなさ》に加えて、もうひとつ、避難されている方たちは「先の見えない不安」も抱えていらつしやいます。

たとえば、4〜5ページの住宅の問題でも書かれているとおり、応急仮設住宅の供与期間が1年ごとの延長であるため、数年前の計画が立てられない、という問題があるのです。

応急仮設住宅の供与期間に連動して、引越しを余儀なくされる可能性のある方、母子避難をしていて「いつまで父親と離れた生活をすればいいのか」を思い悩む方もいます。

いずれ打ち切られてしまうかもしれない住宅供与にそなえて、仕事を始めたいけれど、その働き方も、住宅供与の問題を含めたそれぞれの状況によって左右されてしまうジレンマもあります。

また、避難元に残る親や配偶

ているよ」というメッセージから、「神経質なんじゃないか」「まだ避難しているの」という言葉まで、ふと投げかけられる言葉に反応してしまう、という声もよく聞きます。放射線被ばくに対する認識の違いから、問題意識を共有できないつらさがあるのです。

「二重生活のためのお金のために、避難してきてすぐフルタイムで働いていて、土日も子どもの用事でつぶれて、交流会になんて、参加できなかったんです。3年目に、仕事にもひとりの子育てにも疲れきってしまった……何のために生きているんだろう、って。それで、思い切つて仕事を休職にして、やっと、はじめて、同じ境遇の人にであえました」

安心して本当のことを言ってもよい、という環境で、話してくださる言葉の数々……。多くの自主避難中の方は、胸の内におさめて生活してきている、というのが現状なのです。

◆いま、住んでいる地域で―

「自主避難」の背景は、詳しく報道されることはほとんどなく、避難先の埼玉県でも、なかなか理解されにくい状況があります。

「近所のおじさんに『もう帰れるの?』と言われて、『うーん、帰れるんですけど、ね……』と（苦笑）なんて伝えたらいいのかな……って」

「この人にお話してもいいかな……」と思つて『自主避難中です』と伝えるときに、お互いの目が泳いじゃう感じがあるかな。こちらには、『理解してもらえるかな……』という不安もあるし。

いことだと強く願っています。

◆おわりに

原発事故以前から、他人と見えないものを共有することも、「何が正しいのか」を共有することも、難しいことでした。放射能の問題は、そのことを、より深刻にしています。

自主避難、という言葉は、「自主的」であるという印象を与えますが、「自主避難者も決して、避難したくて避難しているわけではない」という認識はもっとも大切です。

住んでいた土地・故郷への思いや、慣れ親しんだ環境・人への思い――当然《喪失感》を抱えていらつしやいます。

その《喪失感》に加えて《つながりにくさ》《賠償のなさ》《先が見えない不安》を背負わされた自主避難の方々は、それらすべてを「自己責任」とされ、さまざまな人生の選択を強いられて続けています。

それぞれの方が置かれている状況を理解し、優先されることは何か、苦しい状況に置かれた方に本当に必要とされることや、本当に必要な情報は何かを精査していく時期になっていることを感じています。

（編集部・吉田）

五年目の県外避難者「支援」を巡って

（法政大学人間環境学部／福玉会議アドバイザー）
西城戸誠

▼今年一年を振り返って

今回の号外号で掲載された埼玉県内の各地の活動の報告を見ると、さまざまな地域でそれぞれの立場で寄り添い、集い、皆で力をあわせて前向きに生きていくこうとする姿が伺えます。それは避難者を一方的に支援するという形ではなく、避難者が自立的に行動し、それに寄り添い、支える支援者という形が、徐々にですが広がってきた感があります。もちろん、すでに自立して支援が必要ないという人もいれば、物的な支援を必要としている方もいますので、避難者の多様なニーズに応える必要があります。また、浪江町の復興支援員の個別訪問の活動が実施され、他の自治体の復興支援員の活動も始まりました。多様な避難者とニーズに応える多様な支援（まだ地域によって偏りがありますが）を、福玉便りや福玉会議が点と点を結ぶという体制が構築されつつあることは、手前味噌ですが、一定程度評価されると思います。

一方で、埼玉県内の避難者数はやや減ったものの、避難者の方への「福玉アンケート」の集

計結果は、昨年の結果とほぼ同じような傾向となりました。こ

れは残念ながら、震災避難の問題が解決されずに温存されていることを意味します。つまり、震災避難の問題が「構造化」されつつあり、上記の支援活動でもまだ不十分だということです。しかも、アンケートの自由回答の記録を見ると、問題が個別かつ多岐にわたり、孤独感や不安感を深めている方が少なくなく、問題がより深刻になっていることが伺えます。避難に関わる問題は、確かに時間とともに変化していますが、より問題が複雑化、深刻化し、それが解決されないままになっているわけです。さらに、震災と原発事故から四年目となり、問題自体の「風化」が当事者から懸念されていますが、この「風化」の問題が、避難に関わる問題を覆い、より解決しにくい状況を生んでいるのです。

▼三つの課題

避難者を取り巻く環境、その支援に関してさまざまな課題がありますが、ここでは三つの論点をまとめておきたいと思っています。

第一に、交流会・サロンにつ

いては、参加者の固定化の問題が昨年以上に大きな問題になっていることが伺えます。新規の参加者の参加の壁をなくし、地域で孤立、埋没している方を「掘り起こす」ために、そして交流会の活動を継続させるために参加者にとって「楽しい」企画を行う必要性が指摘されています。ただその一方で、これからの町・「故郷」をどうするかという話題や、他人の前では話しづらいさまざまな悩みは、同じ町や同じ境遇の人同士の間では共有しにくいものです。交流会・サロンという「場」の作り方を細かく作っていく必要がありますが、避難者は広域に拡散しているため、きめ細かい「場」の設定が逆に「場の偏り」になってしまいうという矛盾も生みます。難しい課題ですが、「場」に集う方々の協力で数多くの多様な立場の方にプラスになるような交流会・サロンの企画を進めていきましょう。無理に交流を強いることは問題だと思いますが、交流にはお金や物資を配分する関係性には換えられない価値があると思うからです。

作っていく必要があります。例えば、福玉便りによる教育や受験情報の提供は一定の評価をいただいているようですが、学習支援のための団体との接続が課題となります。一方で、高齢者の介護、医療負担の問題などは、個人の経済事情も関わるため、民間の支援団体だけで負える問題ではありません。例えば、ニーズの把握や、専門の支援団体の紹介や関係機関の調整は支援団体が行い、専門期間はサービスを提供、制度的なサポートは行政等が行うといった役割分担のモデルをつくり、それを広めていくことが重要です。また、就労問題は、どれだけのニーズがあるのか、より詳細な情報収集が必要です。就労は個人の問題と捉えがちですが、避難者個人の責任に帰せず、に就労斡旋のための仕組みを考えていくことが重要です。これらの課題は従来から支援側も理解していたはずが、ほとんど未着手の部分です。

第三に、自治体アンケートの結果は、埼玉県内の避難者に対する支援や対応におおきな大きな温度差があることを示唆しています。避難者アンケートにも、支援に差があることへ「あきらめ」が見て取れました。これらの点に対しては、地域で連携し、支援の格差がなくす施策を求めていることが重要で

▼最後に…支援体制の新たな展開を！

福島第一原発事故によるさまざまな問題は、一つの問題の解決が別の問題を生んだり、問題自体が変化したり、抜本的な解決がなかなかできないものばかりです。それは「政治家の決断」に期待したり「専門家」に任せたりするのではなく、試行錯誤を繰り返しながら問題の解決をその都度進めていくことが重要です。多様な主体による多様な支援をどう構築するのかという点について、二〇一五年度は支援組織の刷新も含めて考えていきたいと思っています。



復興支援員さんが活動しています。

埼玉県内には、下記の5つの自治体の復興支援員さんの事務所があります。支援員さんは、日々、行政や民間団体と連携して、個別訪問や交流会開催などの活動しています。どうぞお声掛けください。

■浪江町復興支援員 埼玉事務所

開所時間：平日10:00～17:00

さいたま市浦和区常盤6-4-21とさわ会館4F

TEL 080-5749-2996

浪江町が埼玉県内に配置している復興支援員の事務所です。浪江町民に限らず、気軽に遊びに来てください。
※この事業は、浪江町が（一社）埼玉県労働者福祉協議会に委託して実施しています。



■富岡町復興支援員 埼玉事務所

さいたま市浦和区常盤6-4-21とさわ会館4F

TEL 048-833-8731

埼玉県を中心に首都圏での「個別訪問」を行います。同時に、富岡町民が多く避難している自治体で「交流サロンやしゃべり場」を開催します。
※この事業は富岡町が（一社）埼玉県労働者福祉協議会に委託して実施しています。



■双葉町復興支援員 埼玉事務所

埼玉県加須市騎西5-2 フローラルプラザ102

愛称は「ふたさぼ」いわき市、郡山市、加須市に配置されています。

■大熊町コミュニティ支援関東事務所 梨の実スペース

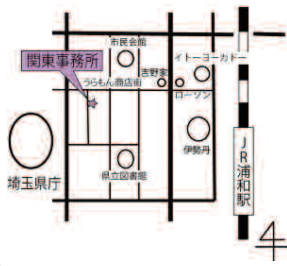
開所時間：平日10:00～16:00

埼玉県さいたま市浦和区仲町2丁目15番4号アイリーセブンコート1階

TEL 048-711-7135



関東事務所のオープンイベントでの交流会



■福島県復興支援員 埼玉事務所

開所時間：平日9:00～17:00

さいたま市浦和区常盤6-4-21とさわ会館4F

TEL:048-814-1111/080-8764-7927

FAX:048-814-1112

※ 事務所不在の場合は留守番電話にメッセージを残してください。折り返しご連絡いたします。
※この事業は、福島県が（一社）埼玉県労働者福祉協議会に委託して実施しています。



企画・監修：

原田峻（立教大学コミュニティ福祉学部）

西城戸誠（法政大学人間環境学部）

編集デザイン：NPO法人ハンスオン埼玉

協力：（一社）埼玉県労働者福祉協議会

生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先：（一社）埼玉県労働者福祉協議会 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21

TEL 048-833-8731メール:fukutama@431279.com

執筆／制作：『福玉便り』編集部

谷居早智世（NPO 法人ハンスオン埼玉）

永田信雄（（一社）埼玉県労働者福祉協議会）

西川正（NPO 法人ハンスオン埼玉）

原田峻（立教大学コミュニティ福祉学部）

吉田千亜（ライター）

福玉便り
2015春の号外

*本誌は、2014年度立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金「埼玉県における原発避難者の実態把握と支援に関する実践的研究」(研究代表者:原田峻)ならびに第32回(平成26年度)カシオ科学振興財団「原発避難者支援の多様性確保に向けた仕組み構築に関する比較研究」(研究代表者:西城戸誠)による成果の一部です。

一人で悩まないで、
ぜひ、ご相談ください



◆埼玉弁護士会

○**弁護士による無料の対面・電話相談**(事前予約制)

予約受付ダイヤル：**0120-013-814**(フリーダイヤル)

[受付時間 10:00～17:00(土日祝日も受付)]

○「**法律相談センター**」で相談する(時間は30分が原則)

あらかじめ日時をご予約いただき、お近くの法律相談センターまでお越しください。

埼玉県南部の方→埼玉弁護士会法律相談センター048-710-5666

埼玉県西部の方→川越支部法律相談センター 049-225-4279

埼玉県北部の方→熊谷支部法律相談センター 048-521-0844

埼玉県秩父地域の方→秩父法律相談センター 048-521-0844

埼玉県東部の方 越谷支部法律相談センター 048-962-1188

＊電話による法律相談は受け付けておりませんので、あしからずご了承ください。

○**原発被害救済弁護団**

相談内容・お住まいの地域等を考慮のうえ、弁護団所属の弁護士をご紹介します 弁護団電話番号 **048-642-3883**

◆原子力損害賠償・廃炉支援機構東京本部での各種相談

弁護士による対面相談 毎週 月・水

開催時間 10:00～17:00 場所 機構本部

港区虎ノ門2-2-5共同通信会館5階

※お問合せ・予約は「フリーダイヤル0120-330-540」

<http://www.ndf.go.jp/contact/location.html>

◆行政書士による賠償請求に関する電話での無料の情報提供

賠償請求や申立てに関する手続き、各種公的支援制度等に関する情報提供 **0120-013-814**(フリーダイヤル)

[開催時間 10:00～17:00(土日祝日も受付)]

◆埼玉県司法書士会

電話：**048-838-1889**

【電話法律相談情報】相談内容：法律相談(登記・相続、クレジット、サラ金問題、民事再生、破産、小額訴訟、成年後見、会社設立・変更など)※国民の祝日、年末年始、8/13～15までの期間を除く。

○**埼玉司法書士会の総合相談センター**

(1)浦和総合相談センター 埼玉司法書士会館

電話：048-838-7472 受付：平日10～16時

(2)熊谷総合相談センター 熊谷市宮町2-132-4F

(3)越谷総合相談センター 越谷市越ヶ谷2-8-22-2F

(4)所沢総合相談センター 所沢市緑町1-18-15-1F

埼玉司法書士会総合相談センターでは、無料で相談を承っております。 ※曜日によって、相談内容が異なります。

◆よりそいホットライン

0120-279-338(フリーダイヤル つなぐ・ささえる)

被災した経験を持つ地方自治体の首長や首長経験者等が発起人となり、全国の民間団体に協力を呼び掛けて『一般社団法人社会的包摂サポートセンター』を立ち上げることになりました。「せっかく一度は助かった命を失わせてはならない」。これがホットラインスタートの決意です。どんな悩みでも、一度電話で相談してみてください。一緒に解決を考えてみませんか? ※毎月11日は「震災被災者」専用相談。

◆女性のための電話相談ふくしま

電話**0120-207-440** 通話料無料／全国共通番号

相談時間 月～金(祝日除く)10時～17時

主催：内閣府／福島県 協力：女性の自立を応援する会／いわきふれあいサポート／郡山市／いわき市

眠れない、生活、DV、孤独感、家族、人間関係、仕事、将来の不安。被災している方はもちろん、被災者を支援している方からのご相談も対応します。秘密は厳守しますので、どうぞ安心してご相談ください。専門の相談員が担当しています(匿名でご相談いただけます)。

◆SSNあなたも一言! 避難生活なんでもダイヤル

避難生活上の不満、悩み、お困りごとなど、なんでも、あなたの一言をお聞かせください。解決方法を一緒に考えます。

避難者の方だけでなく、避難者支援をしている方々からの代理電話相談もお待ちしています。

いただいた声は、必要に応じて国や行政に届けます。

電話番号：**048-829-7400**

受付時間：毎日10:00～18:00

主催団体：震災支援ネットワーク埼玉

◆福島就職応援センター

仕事をお探しの方にカウンセリングを実施し、能力・適性に合わせた求人情報を提供して就職を支援しています。また、求人開拓を通して地域企業の求人業種・職種と求職者とのマッチングを推進し、就職を支援しています。なお、生活・就労相談も行っていますので、お気軽にご相談ください。

[窓口相談]専門の相談員による就職相談・職業紹介や生活・就労相談を行い就職等を支援しますので、お気軽にご相談ください。また、独自の求人開拓を行い、求職者と求人企業のマッチングを図りながら就職支援と併せて企業の人材確保を支援していきます。

[東京窓口]ふるさと暮らし情報センター内 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館6階

TEL.**03-3214-9009**／FAX.03-6273-4404

ご利用時間 月曜日～土曜日 10:00～18:00 休館日 日曜日・祝日・8月 13日～15日・年末年始(12月29日～1月3日)

◆埼玉県の東日本大震災復興支援相談窓口

電話：**048-830-8281**(危機管理防災部危機管理課)

○午前8時30分～午後5時15分(土・日・祝日を除く)

○相談は、原則電話で受け付けます。

・公営住宅・民間賃貸住宅の入居について

・就労支援について

個人向け ・原発事故に伴う健康相談窓口(保健医療政策課)

・外国人のための災害関係相談窓口(国際課)

事業者向け・中小企業に対する支援策・相談窓口(産業労働政策課)

・農業相談窓口(農業政策課)

◆被災者相談ダイヤル「ふくここライン」

○専用ダイヤル **024-531-6522**

ご利用時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00／13:00～17:00

※専門の相談員がお受けいたします。

※埼玉県など遠隔地からの電話は「折り返し電話」で対応します。